

## 育林の低コスト化に向けて

### 育林・育種部会に出席

六月二十五日(水)・二十六日(木)の二日間、松山市で「関西地区林業試験研究機関連絡協議会育林・育種部会」が開催されました。

連絡協議会には、関西地区一府一六県に加え、森林総合研究所(関西支所、四国支所等)、近畿中国森林管理局、四国森林管理局から技術普及課、森林技術・支援センターが出席しました。

一日目、各県等で取り組んでいる課題や経過及び成果等が発表されました。

二日目、研究トピックスでは、四国局から技術開発課題の概要を発表し意見交換等を行いました。(写真)



今回の連絡協議会では、低コスト造林、コンテナ苗生産の課題、エリートツリー植栽試験、マツノサイセンチュウ、ナラ枯れ等について各機関等との貴重な意見交換等を行うことができました。

連絡協議会で得られた各種情報、内容等を踏まえ、今後、低コスト造林等の取り組みに活かして参ります。

## 誌上 森林環境教育

### 「森林の土」

森林の地面を掘って表土(黒い土)とその下の層(赤みの土)の違いを比べ、性質・機能の違いを調べる。

### 展開

- ・森林の地面をスコップで少しずつ掘る。
- ・根の張り具合と落葉層・黒い土・赤みの土の厚さを測る。
- ・各土の状態を観察し、肉眼で見える小動物を捕まえて、種類と数を記録する。

### まとめ

- ・グループごとに、土層の観察記録、小動物の観察記録を発表する。
- ・小動物が落ち葉を食べて分解していること、表土の団粒構造等を解説する。

**団粒構造**—小さな粒が集まって、大きな粒を作り、それが集まってさらに大きな粒を作るといった構造。この構造のため「森林の土」は保水力、通気性に優れている。

(大日本山林会 日本の森林と林業より)

### 編集後記

梅雨明け間近、暑さ対策には水分補給も。体調にはくれぐれも留意して乗りきりましょう。



### 「水源かん養」 って



### 大小さまざま隙間(すきま)をもつ森林の土壌

森林の水源かん養機能とは、大雨が降った時の急激な増水を抑え(洪水緩和)、しばらく雨が降らなくても流出が途絶えないようにする(水資源貯留)など、水源山地から河川に流れ出る水量や時期に関わる機能。より広い意味では、水質浄化を含み、もともと「かん養」という言葉には、自然に水が浸み込むように徐々に養い育てていくという意味があり、一朝一夕ではなく、長い時間をかけて水源としての機能を育む意味が込められている。

森林の地面は、樹木をはじめとする色々な生物の活動などにより、大小様々な隙間をもつ森林土壌が形成。このような森林では、土壌中に浸み込んだ水も、大きな隙間では速く、小さな隙間では遅く移動。森林を流れる河川の水が大雨でも急には増えず、雨の後も流れ続けるのは、森林に降った雨がすべて同時に河川に流れ込むのではなく、いろいろな経路を通り、それぞれ異なる時間経過で河川に流れ込む。

これは大小様々な隙間をもつ森林土壌の働きによる。

(森林総合研究所HP森と木のQ&Aより)